

鶴見・あいねっと区民アンケート 結果報告

鶴見区では、「健康で住みやすい福祉のまちに！」を基本目標に、誰もが安心して生活できるまちづくりのための活動「鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）」を、区民の皆様とともに進めています。

平成 28 年度から始まる第 3 期鶴見区地域福祉保健計画の策定に先立ち、区民の皆様への地域や福祉、保健などの身近なことについてお伺いするために、区民アンケートを実施しました。このたび、集計結果がまとまりましたのでご報告します。

1 調査の概要

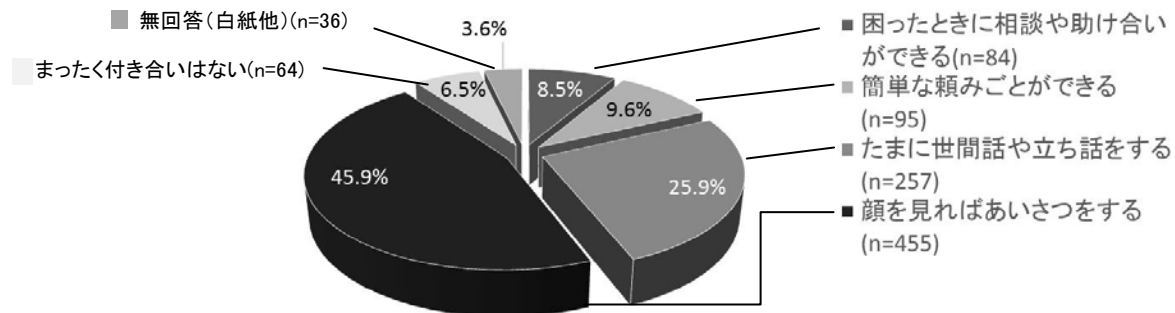
調査対象	鶴見区内に在住する満 20 歳以上の区民 2,000 人
抽出方法	外国籍区民を含み無作為抽出
調査方法	郵送配付及び郵送回収
調査期間	平成 26 年 9 月～10 月
回収結果	調査票発送数：2,000 件 回収数：992 件（回収率 49.6%）

2 主な調査結果

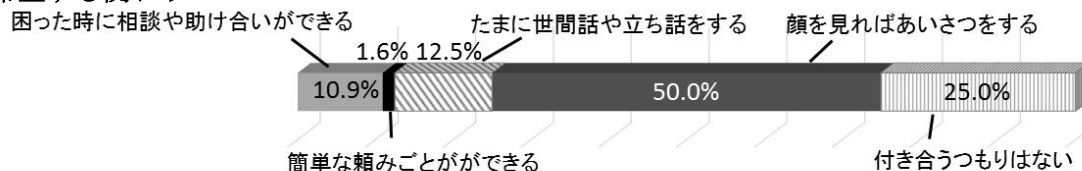
（1）近隣との関わりの薄い人も、なんらかの近隣との関わりを希望

日頃の近隣との関わり方で、「困ったときに相談や助け合いができる」、「簡単な頼みごとができる」の割合は、2 割に満たない。しかし、現在の近隣との関わりが「まったく付き合いはない」と回答した人の 75.0%が近隣となんらかの関わりをもちたいと希望している。

■日頃の近隣との関わり

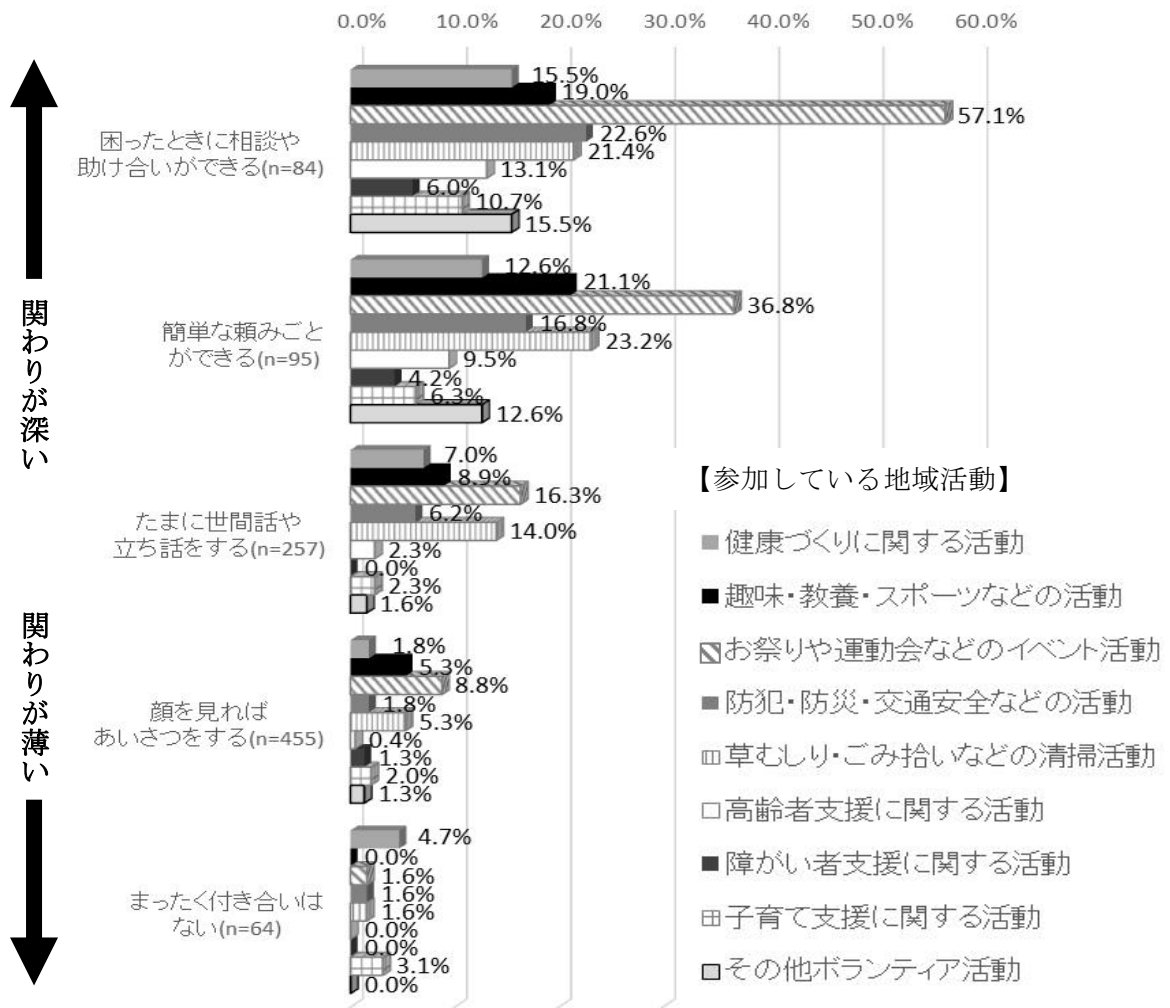


■日頃の近隣との関わりが「まったく付き合いはない」と回答した人（n=64、6.5%）が、希望する関わり



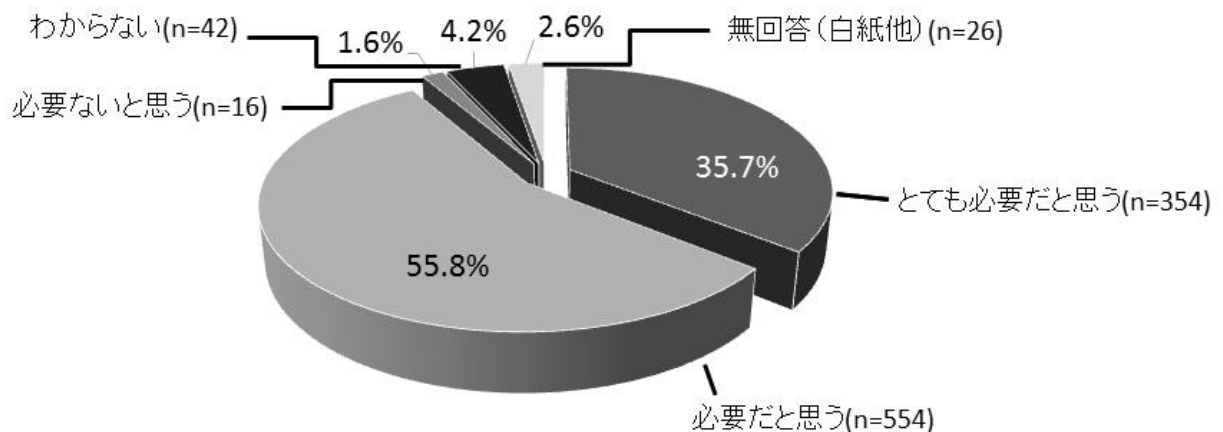
(2) 近隣との関わりが深い人ほど、地域活動への参加割合が高い傾向 近隣とのつながりのある人とない人の2極化

■日頃の近隣との関わり（地域活動の参加状況別）



(3) 災害時に助け合うためには、日ごろから顔の見える関係づくりが必要と9割が回答

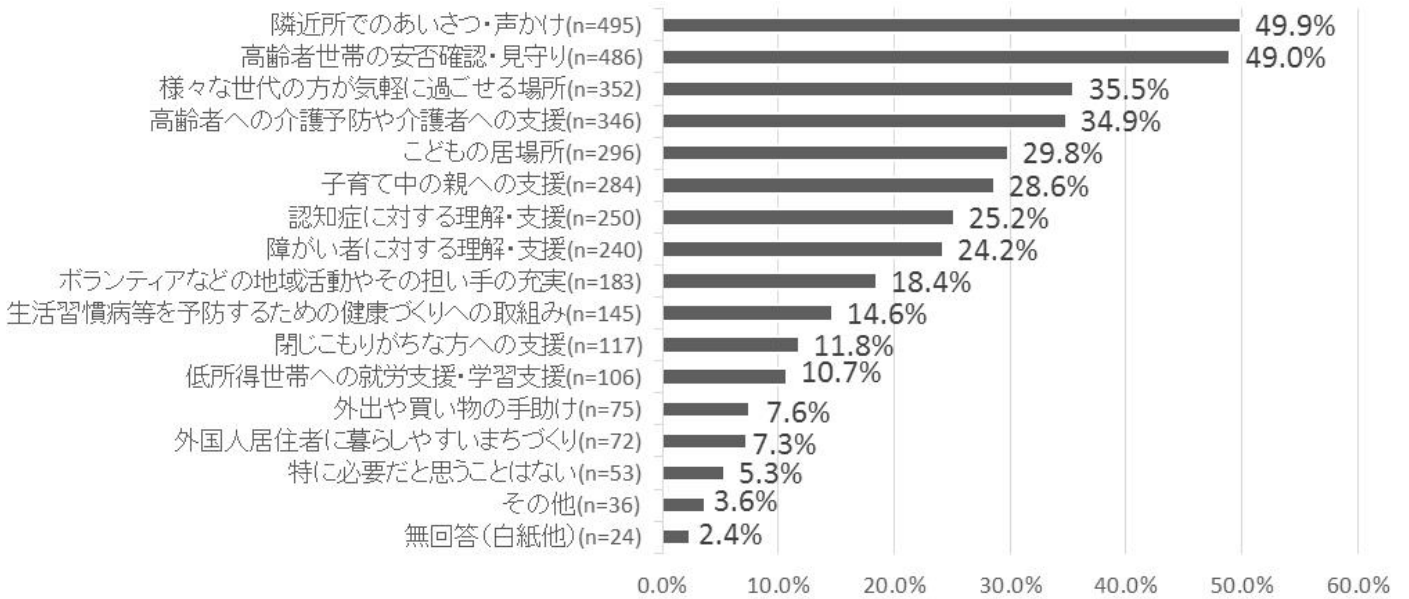
■災害時に向けた日頃からの顔の見える関係づくりの必要性の意向



(4) より住みよい町になるために、充実するとよいことは、

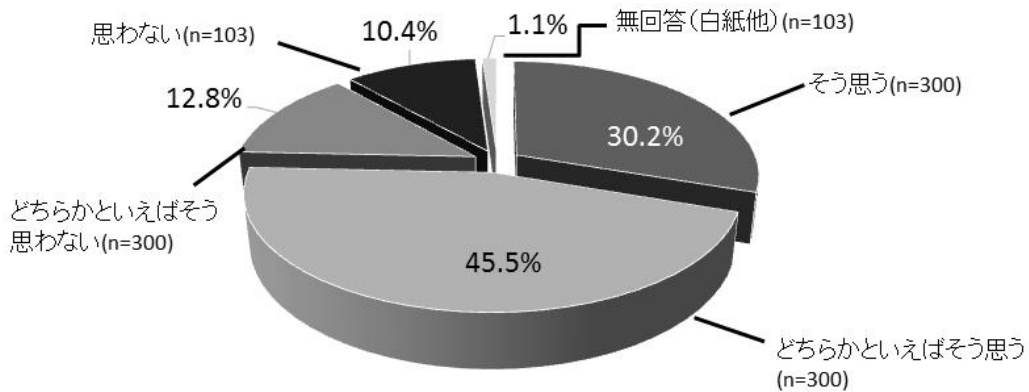
「隣近所でのあいさつ声かけ」、「高齢者世帯の安否確認・見守り」

■もっと住みやすい町になるために充実するとよいこと



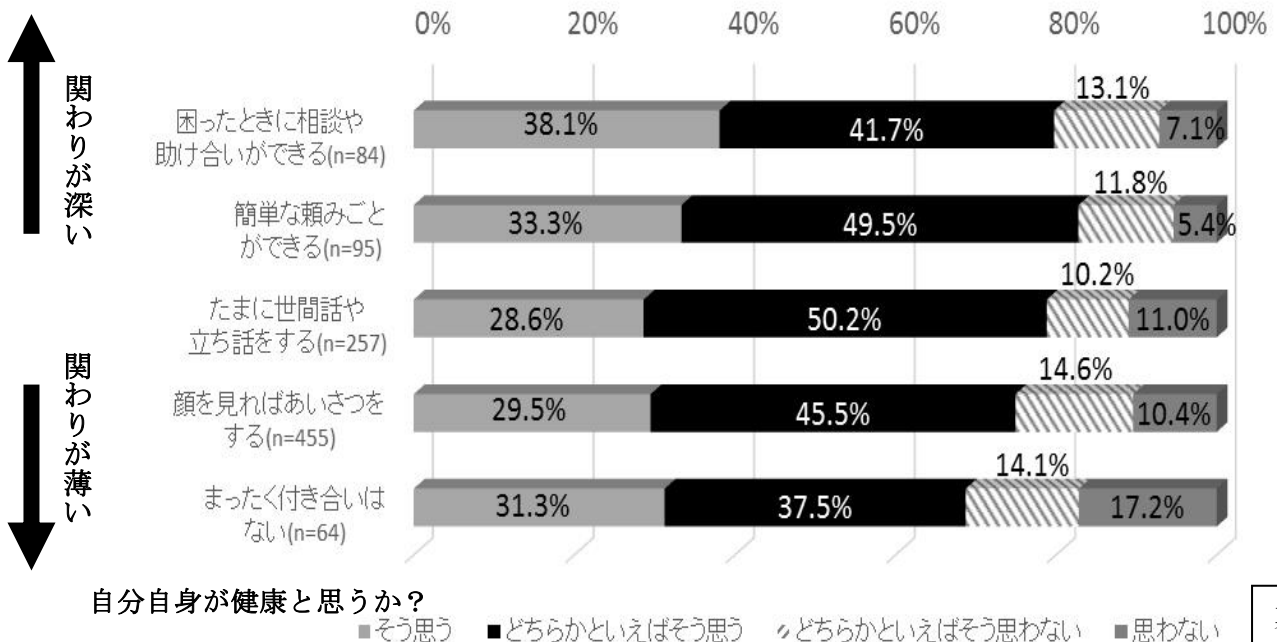
(5) 自分自身の健康について、概ね 4 人に 1 人が不安を感じている

■自分自身が健康と思うか？



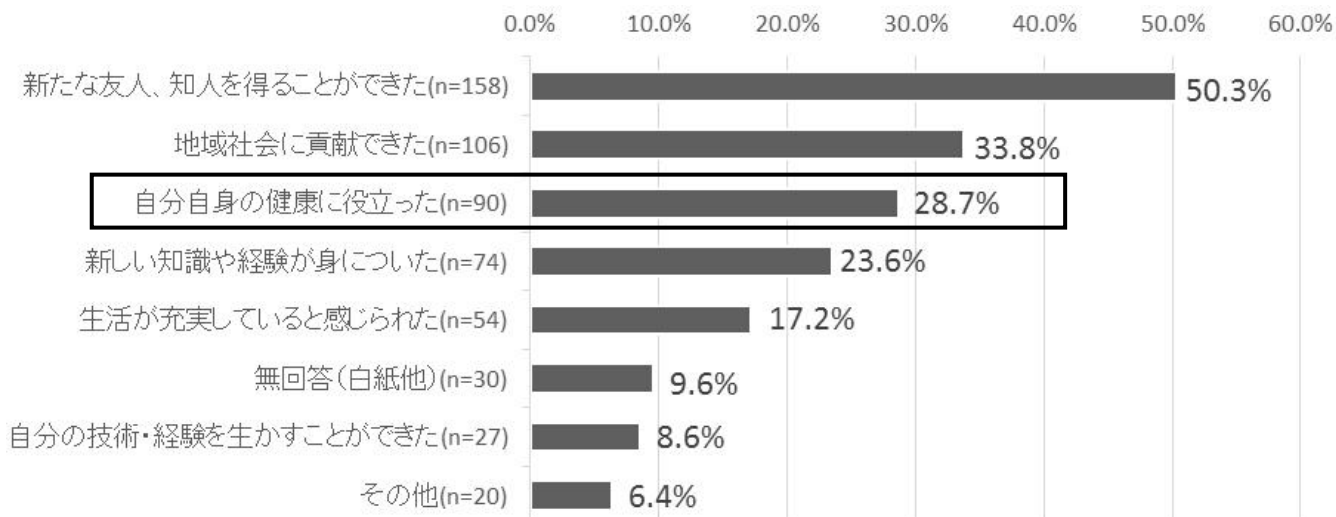
(6) 近隣との関わりが薄い人ほど健康に不安がある傾向

■日頃の近隣との関わり (自分自身の健康感別)



(7) 地域活動参加者の約3割が、自分自身の健康に役立ったと回答

■地域活動に参加してよかったと思うこと



※ 詳細な報告書は、鶴見区のホームページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/information/torikumi/fukushi/3ainet.html>



お問合せ先

鶴見区福祉保健課長 内藤 恵子 Tel 045-510-1790